

梅雨の時期に触れてみよう

対象児:2歳児ひまわり組

作成者:八木京香

作成日2025年6月9日

ねらい:戸外に出たり、製作を通して梅雨の時期を感じる。



振り返り:少しずつ園生活にも慣れ、保育者や友達の名前を覚え始め、一緒に遊びを楽しむ姿が見られています。そんな中で最近では雨が降ることが多く、園庭に出られない日もあります。子ども達からは「あめふりよる」「おそとでれん」という声が聞かれていて、「梅雨の時期だからだよ」と言葉では伝えるのですが、まだ少し難しい様子なので「梅雨の時期」を室内でも感じられるように、てるてる坊主の壁面を製作して教室の後ろにある広い壁に飾ったり、紫陽花の製作をして窓側に吊るしています。子ども達は吊るしていることに気が付いて「きれい」と自分達が製作した紫陽花を眺めていました。紫陽花の製作では好きな色の絵の具を選び、指でポンポンとスタンプのようにして製作を楽しみました。子ども達もわくわくしながら活動に取り組んでいました。園庭に紫陽花の花がもうすぐ咲くので子ども達と一緒に製作した紫陽花の話をしなが、本物の紫陽花の観察をして、いろいろな発見を一緒にしていきたいと思います。また、「梅雨」の季節を感じられるような本を選び、子ども達と一緒に梅雨の季節への興味や関心を広げていきたいと思います。雨上がりの時には園庭に水溜まりが出来ていて、思い切ってみんなで外に出てみました。子ども達の様子を見ていると体全体を使って伸び伸びとダイナミックに遊びを楽しむ姿が見られました。裸足になって散歩に出かけたり、水溜まりの中をジャンプしたり、自分達で楽しみ方を見つけていました。また機会があれば雨上がりの園庭に出て、子ども達と一緒に泥遊びを楽しみたいと思います。今月は雨が降る日も多いかもしれませんが、残念と思うのではなく、梅雨の時期にしか出来ない遊びや製作を楽しみながら、室内での活動も工夫してみんなで楽しみながら過ごしていきたいと思います。(健康な心と体、協同性、社会生活との関わり、言葉による伝え合い、豊かな感性と表現)